

図書館だより

ノートルダム学院小学校

春はもうすぐ、でもまだ寒い

2017.2.1 (水)

No.9



2017年の立春は、**2月4日**です。

立春には春という字が含まれますから、
一見すると寒かった冬は終わり花が咲き、

気温の穏やかな日々をイメージしてしまいがちです。

しかし立春は正確には春が立つ、という意味で、立春を迎えた頃から気温の底はピークを過ぎ、徐々に春めいた気温や天気によって変わっていく、ということなのです。

ですから「立春なのに寒い！」と 憤るのは間違った考え方になってしまいます。立春はこれから本格的な春がやってくるための始まりですから、寒くて当然なのです。



つまり、立春とは季節が冬から春になっていくその日を指すのです。

6年間で心に残った本

山田 優里香

『教室はまちがうところだ』
1年生の時に先生がこの本を読んでくれて勇気が出たから。

太田 朱香

『ハリーポッター』
魔法について、くわしく書かれているので、本の世界に入りやすいから。

福井 一仁

『南総里見八犬伝』
内容や人物関係がおもしろいから。

谷川 綾那

『くちぶえ番長』
マコトとツヨシがかけぬけた一年間の決して忘れられない友情物語がおもしろいから。

川田 純夏

『風の陰陽師』
安倍晴明の昔が描かれている。この人のことを知って陰陽師に興味をわいたから。

河野 采音

『小さな恋の物語』
チッチに共感する事が多々あったから。

近藤 大貴

『しっぽをなくしたイルカ』
病気になって尾びれを切り取られたイルカを助けようとする人たちに感動したから。

五十川 絢香

『ぼくらの七日間戦争』
大人に立ちむかう子どもたちに感動したから。

野瀬 百花

『身代わり伯爵』
数々の困難を乗り越えて幸せになった二人に感動し、ハラハラドキドキしたから。

田中 優佑

『ぼくらの大脱走』
物語がふうにはできないことだらけでおもしろいから。

